

悔れない！ DD(趾皮膚炎)を再考する

みなさんの牧場の牛群に DD に感染している牛は何頭いるでしょうか。最近蹄病治療で足を上げると DD ということが多いように感じます。DD は細菌感染による皮膚炎です。主に後肢の蹄踵部の蹄角質に隣接する皮膚に発生し、強い痛みを伴い跛行を呈す場合が多い蹄病です（ひどい跛行を示さない潜在性の DD もコントロールとしては重要になります）。

DDによる乳生産損失

- 初産乳期の間、繰り返し DD になるような慢性 DD 牛はそうでない牛に比べ平均 726Kg 以上乳生産量が少なかった
- アウトブレイクにより DD に罹患した初産牛は DD に罹患していない牛に比べ平均 544Kg 以上乳生産量が少なかった



写真.

DD 病変が蹄踵の角質まで侵攻した例

予防・コントロールが重要

- 特に育成牛でのアウトブレイクをどれだけ抑えるかが重要
 - こまめな除糞と効果的な蹄浴（5%硫酸銅）やスプレー剤
 - 発情を見つけるように DD 罹患牛を見つける
 - 痛がっている牛がいたら削蹄師 or 獣医師を呼ぶ。
 - または自ら治療する。オキシテトラサイクリンなどの抗生物質を患部に塗布する
- ※適切な治療を行えば **2~3 日で治癒**
☆包帯は 5 日ついていれば十分！ 包帯除去する！ 食い込みはいずれ問題となることも

DD は完治するのか

- 原因菌であるトレポネーマは表皮と真皮に深く入り込み、DD は長期的に影響する
 - 足を上げて DD の治療をする時では、すでに遅い！
- 何度も DD を繰り返し、角質病変などへの移行の可能性

効果的な削蹄とは

- いつ削蹄するのが効果的か？ ウィスコンシン大学のドップファー博士は以下を提案
 - 分娩前の育成牛 ⇒ 分娩後 150 日 ⇒ 乾乳前 ⇒ 分娩後 150 日 ⇒ 乾乳前…
(最低でも年二回の定期削蹄は必要)

(Dorte Dopfer, Wisconsin Univ., 2014 参考)

DD の治療は簡単にできます。時間もかかりませんし、高度な技術も必要とされません。しかし DD による損失は我々が考えているよりもはるかに大きいのです。一般的に足を痛がっている牛は繁殖が良くありませんし、餌場にも向かわなくなります。悪循環です。フットバスは大変ですが、それに見合うだけの価値はあるでしょう。DD といえど悔れません。

茅野大志